

卒業論文

大学生の寄付行為における公共性意識の影響

平成 18 年度入学

九州大学 文学部 人文学科 人間科学コース  
社会学・地域福祉社会学

平成 22 年 1 月 7 日提出

## 要約

本論文では、低迷している日本での寄付行為に焦点を当て、寄付への参加率が非常に低い大学生を対象に、公共性意識などの形成要因が寄付行為に及ぼす影響や、寄付への参加・不参加の動機について論じている。

まず第1章では、寄付の現状として、寄付額や参加率とその推移を述べている。併せて、アメリカにおける統計も載せている。また、寄付参加動機や寄付不参加動機についての先行研究や調査結果を提示し、批判的に考察している。そして、本論文においては寄付動機を、大学生が多く参加している街頭募金とチャリティーイベントでの寄付という2種類の募金方法別に、分析を加えることを示している。また、日本での寄付の歴史についても述べている。

第2章では、問題設定、寄付の位置づけを行い、さらに、企業の寄付や、政府からの補助と比較しながら個人寄付の意義について述べている。問題設定としては、30歳未満の層では、寄付への参加率が低くなっていることから、30歳未満の年代の一つである大学生をサンプルとし、寄付行為の形成要因を考えることにした。

第3章では、本論文で、寄付行為に影響すると考え、調査において検討する要因について、先行研究のレビューを行い、最後に仮説を述べている。寄付行為の形成要因としては、公共性意識（社会意識・地域意識）、集団主義／個人主義、地域活動、パーソナルネットワーク、属性（収入、性別、年齢、居住年数）について扱っている。また、今回の調査では取り扱わないものの、寄付を取り巻くその他の要因として、税制、宗教などをあげている。仮説については、対立仮説とその論拠についても記している。

第4章では、今回の本調査「寄付行為に関する研究」の概要と、分析に使用する変数の説明を行っている。まず、事前調査1、事前調査2について説明を行い、次に、本調査の目的、対象、調査に用いた質問項目などを述べている。結果の分析に使用する変数の説明に関しては、「寄付行為に関する分析」、「寄付動機の分析」、「寄付不参加動機の分析」、「ボランティア活動に関する分析」の大きく4つの分析に分けて説明している。

第5章では、それぞれの分析ごとに分析結果をまとめ、考察を加えている。線形重回帰分析（強制投入法）や2項ロジスティックを行った。公共性意識などの変数の寄付行為やボランティア活動への影響としては、まず、公共性意識の中で特に、社会意識は寄付行為によりプラスの影響を与え、地域意識は、ボランティア活動においてプラスに働くという

ことがわかった。寄付行為とは、ボランティア活動のように、地域の身近な人々を助けるという感覚ではなく、社会の、「顔を知らない人々」を助けるといった意味合いが強いであろうことが考えられる。集団主義／個人主義については、まず、この2つが排他的な関係ではないことがうかがわれた。集団主義は、寄付有無という二択においてはマイナスの影響を与えたが、それ以外においては、寄付行為、ボランティア活動ともにプラスの影響を与えていた。個人主義に関しては、プラス・マイナスでいうと集団主義とほぼ同じ動きをしたが、寄付意欲についてのみマイナスであった。収入、支出から求めた自由にできるお金に関しては、まず寄付行為においては、お金を持つ人ほど意欲は高いが、実際の行為になるとお金を持たない人ほど積極的であった。しかしながら、ボランティアに関しては、お金を持たない人ほど意欲は高いが、実際の行為になると、お金を持つ人ほど頻度としては頻繁に行うという結果となった。地域活動、パーソナルネットワークに関しては、どちらも、寄付有無という二択においてはマイナスに働いたが、その他の寄付行為、ボランティア活動に関する項目では、プラスに働いた。全体的に、地域活動をする人、パーソナルネットワークが広い人の方が、寄付行為やボランティア活動に積極的であることがうかがわれた。

「寄付動機分析」に関しては、外部的動機は積極的・消極的を問わず、プラスの影響を与えた。この外部的動機の影響力の高さは、その積極性を問わないという点でも、今後、寄付行為を増加させていくために重要な視点となると考えられる。

「寄付不参加動機分析」に関しては、募金方法による比較を行った結果、積極的・外部的動機について、街頭募金の場合は、寄付行為にマイナスに働いているのに対し、チャリティーの場合はプラスに働いた。街頭募金とチャリティーイベントという2つの募金方法を取り巻く外部的状況の違いが考えられた。

最後に、今後の課題を述べた。本調査の対象となった大学生は、社会や地域へ貢献したいという意識をもつ人がどちらも8割に近かった。この意欲の高さを実際の寄付行為に結び付けていくため、寄付の対象者についての情報を寄付者に提示する際、寄付を受け取る相手を「私たち」の延長として意識させる事の重要性が述べられた。

## 目次

はじめに	1
第1章 寄付の現在とその歴史	3
第1節 寄付の現状	3
1-1-1 寄付額、参加率とその推移	3
1-1-2 募金活動の展望	6
1-1-3 日米比較	6
第2節 寄付動機	7
1-2-1 寄付動機	7
1-2-2 寄付不参加動機	8
第3節 寄付の歴史	9
第2章 問題設定と用語の位置づけ	11
第1節 問題設定	11
第2節 寄付の位置づけ	11
2-2-1 寄付の定義	11
2-2-2 ボランティア活動との関係	11
第3節 個人の寄付の意義	11
第3章 寄付行為の形成要因	14
第1節 公共性意識（社会意識・地域意識）	14
第2節 個人主義・集団主義	16
第3節 地域活動・パーソナルネットワーク	16
第4節 属性（収入、性別、年齢、居住年数）	17
第5節 その他の要因	18
3-5-1 税制	19
3-5-2 クラウドディング・アウト	19
3-5-3 宗教	20
第6節 仮説・対立仮説の設定とその論拠	21
3-6-1 寄付行為に関する分析	21
3-6-2 寄付動機の分析	23
3-6-3 寄付不参加動機の分析	26
3-6-4 ボランティア活動に関する分析	29

第4章 寄付行為に関する研究	32
第1節 調査概要	32
4-1-1 事前調査	32
4-1-2 本調査	33
第2節 変数に関して	35
4-2-1 変数の設定一覧	35
4-2-2 変数と質問項目の対応一覧	37
4-2-3 変数の説明	40
第5章 公共性意識の寄付行為への影響	44
第1節 分析手法解説	44
第2節 寄付行為に関する分析	45
第3節 寄付動機に関する分析	49
5-3-1 寄付動機に関する分析	49
5-3-2 寄付不参加動機に関する分析	51
第4節 ボランティア活動に関する分析	55
5-4-1 ボランティア活動に関する分析	55
5-4-2 寄付行為に関する分析とボランティア活動に関する分析	58
第5節 まとめと今後の展望	60
参考文献	63
謝辞	65
付録1：事前調査1・調査票	
付録2：事前調査2・調査票	
付録3：本調査・調査票	
付録4：居住年数・度数分布表	